

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

Vol.
126
2022 Dec.

特集1

キーワードは「共創・協働」、
未来社会デザイン統括本部が動き出す

特集2

博士課程の先輩たちにインタビュー！

[COVER／躍動]

九州大学マンドリンクラブ



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学広報室

TEL:092-802-2130 E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学学生後援会

TEL:092-802-5968 E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学同窓会連合会

TEL:092-802-2158 E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

■編集・発行：九州大学広報室
〒819-0395福岡市西区元岡744
■Webサイト：<https://www.kyushu-u.ac.jp/>
■印刷：凸版印刷株式会社
■編集協力・取材：中岡由希子、水島理恵
■撮影：凸版印刷株式会社
■デザイン：株式会社イングラ HIQU DESIGN

◎お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。
◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。
◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。

[表紙撮影協力：九州大学マンドリンクラブ]



大好きな野球

「野

球なら話せるよ」。幼少期を長崎県の平戸で過ごした総長。野球好きは、その頃からだと言います。「小学生の頃、みんなで遊ぶといたら野球。車を4時間くらい走らせて、家族で福岡の平和台球場まで行ったこともあったね」。昔を懐かしむ目は、少年そのもの。地方では読売ジャイアンツ戦しかテレビ放送がない時代、短波放送のラジオにかじりついて西鉄ライオンズ戦の中継を聴いていたとか。医師になって出場した医局対抗の野球大会では、チームも強くていい成績だったとちよつと自慢げ。そして今は、テレビでスポーツニュースを観ることが何よりの楽しみに。注目選手は、大谷翔平選手です。言わずと知れたメジャーリーガー、投げては打つ二刀流、ファンに愛される人柄。「同じ日本人として誇らしい」と語ります。自身もアメリカ留学を経験し、異国で日本人が活躍することの大変さを知っているからこそ感じるものが大きいでしょう。「挑戦し続けていることがね、やっぱりすこいよね」。



石橋達朗

2022.11.8

EVENT INFORMATION

九州大学
主催

バッハ・コレギウム・ジャパン演奏会「ロ短調ミサ曲」

2023年3月17日(金)

開場 18:00／開演 18:30 アクロス福岡シンフォニーホール



チケットの詳細はこちら

CONTENTS

01 [巻頭コラム] 総長の「好きなもの」

03 [特集1]
キーワードは「共創・協働」、
未来社会デザイン統括本部が動き出す

07 [特集2]
博士課程の先輩たちにインタビュー!

09 [躍 動] 九州大学マンドリンクラブ

九大広報 KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE Vol.126 / 2022 Dec.

11 世界から九大へ 九大から世界へ

13 現役九大学生 >>> 卒業生インタビュー

15 クローズアップ九大 九州大学 高等研究院 安田研究室

18 [Museum Report] 箱崎日より
「九大博の古人骨資料開示室」

19 Connect with Alumni

21 九州大学基金

※記者会見レポート、KYUDAI TOPICSは掲載を終了させていただきました。

キーワードは「共創・協働」、 未来社会デザイン統括本部が動き出す

世界に溢れる複雑で解決が困難な社会的課題。九州大学は、自然科学系と人文社会科学系系さらにはデザイン系を加えた知による「総合知」でそれらの課題を解決し、社会変革を牽引する大学になることを目指しています。

そのための方向性や方針を示す「九州大学VISION2030」で掲げた構想実現の柱となるのが、未来社会デザイン統括本部（FS本部）とデータ駆動イノベーション推進本部（DX本部）です。両本部のキックオフシンポジウムが、このたび開催されました。

どんな未来をデザインするか、そのためにいま私たちに何ができるか。FS本部の副本部長である荒殿理事・プロボストが、本シンポジウムのポスターセッションの受賞者とともに語りました。

それぞれの専門分野を通して描く理想とする未来社会とは

荒殿 ポスターセッション受賞おめでとう。シンポジウムはいかがでしたか？

錢 すごくいろいろな先生たちと知り合えました。講演もポスターセッションも全部聞いたんですけど、分野は違っても私の研究テーマとドンピシャな方もいて、これからぜひ一緒に研究したい、さっそくコンタクトしようと思うくわくしています。

工藤 荒殿先生が「デザインの力も入れた『総合知』を使って課題を解決する」ということを強調されていて、デザイン出身の私としては身が引き締まる思いでした。私も、他の方の発表を聞いたり情報交換をしたりする中で、一緒にやったら面白そうだなあっていう方がたくさんいて、そういう出会いがあったかったです。

荒殿 嬉しいですね。九大は、これからますます総合知の取り組みを進めていきます。総合知というのは「共創」と「協働」。つまり、分野は違っても同じ目指すものを頭に置きながら一緒に進んでいくことが大事だと思います。それ

←



アジア・オセアニア研究教育機構
創発推進コーディネーター
せん こん
錢 琨 准教授
専門は心理学。「食料問題の解決を目指す開源節流策～昆虫食と食ロスに関する心理行動研究に基づいて」で優秀賞を受賞。

を促す仕組みとしてFS本部を設置しましたが、今回のシンポジウムがまさにそういう場となってくれたことが嬉しいですね。FS本部では、これから「こんな社会になったらいいな」という理想に一步でも近づくために頑張っていきます。お二人の専門分野から見たときの理想とする未来ってどんな社会でしょうか？

錢 私は「高度幸福社会」です。以前、高度経済成長のときは、国全体が経済的な豊かさに向かっている高揚感がありました。でも、本当の幸せには心の豊かさが必要なのではないでしょうか。私は、心の豊かさが幸福につながる社会を目指したいんです。

荒殿 まさに九大のビジョンにも合致しますね。「ウェルビーイング」と「サステナビリティ」、つまり、物質的な豊かさだけでなく心の豊かさでも大事にしながら、人々の持続可能で多様な幸せを実現するという。

錢 はい。ただ、実際は多様な幸せを阻む要因がいろいろとあって、私はそれを人間の心理と行動の視点で解決したいと思っています。例えば男性の育児休業。いくら法律で決められていても実際の取得率はまだまだ低いんです。男性が育休なんて、という固定概念からの逸脱が難しいんです。そういったことを変えるにはどうしたらいいか、どうしたら人の行動を変えられるか、心理学の視点から考えています。

荒殿 なるほど。今思い出したのですが、九大には「ダイバーシティ・スパーグローバル教員育成研修（SENTANO）」というプログラムがあって、参加した男性教員がプログラム中に育休を取得したのです。プログラム修了は遅れるけど、自分は育児も研究も頑張るんだ！と宣言して。すごいな、だんだん九大も変わってきたなあ嬉しかったですね。

→



九州大学病院 国際医療部
アジア遠隔医療開発センター 副センター長、技術責任者
くどう くりこ
工藤 孔梨子 助教
専門は遠隔医療と芸術工学。「医療・芸術工学 分野融合した課題解決型教育プログラムの開発による医療の質の革新的向上」で奨励賞を受賞。

未来社会デザイン統括本部 副本部長
あらとの まこと
荒殿 誠 理事・副学長・プロボスト

学分野など異分野とも連携し、医療への支援を広げていきたいです。

他分野の視点も学ぶこと、
それが理想の未来社会を作り出す

荒殿 理想とする未来社会を語ってもらいましたが、お二人のご専門を念頭に置いたとき、ここを解決しないと理想には辿り着けないという課題はありますか？

錢 「相互理解」です。国際紛争にしても食料問題にしても、結局は人間同士の利益争い。相手の立場や考えを理解せずに行動した結果です。ただ、理屈ではそう分かっていても、なかなか行動を変えることは難しいです。例えば、今、食料問題の解決策の一つとして昆虫食が注目されていますが、実際は、いくら解決策といわれても昆虫を食べることは躊躇がありますよね。

荒殿 たしかに。食料問題の解決の一助になると理解はしていますが、目の前の昆虫食を美味しそうとは思えないかも……。

錢 そうなんです。栄養バランスがいいとか高タンパクとかのメリットを説明されても、単純に「いやだ」という理由で拒否されます。なぜいやなのか、その心理を理解して行動変容を促せるようにしないといけないんです。

荒殿 どういったら「いやだ」が「食べたい」になるか、行動変容を促す鍵を見つけないということですね。

錢 はい。見た目の問題なのであれば受け入れやすいデザインにするなど、人の心理を理解してどういうプロデュースをすれば効果があるのかを探ります。課題の解決のためにはそういったことが必要だと思っています。

荒殿 ぜひFS本部の食料分野で一緒にやっ

→



Kyushu U 111th Anniversary

VISION EXPO 開催報告

KYUSHU UNIVERSITY VISION 2030
キックオフシンポジウム～未来社会デザイン統括本部・
データ駆動イノベーション推進本部 始動～

2022年4月に設置した「未来社会デザイン統括本部」と「データ駆動イノベーション推進本部」のキックオフシンポジウムを開催しました。当日は、企業や自治体、大学関係者など学内外からオンラインを含め約300名が参加。学内外の方々に登壇いただき、ポスターセッションやパネルディスカッションでは活発な意見交換が行われ、盛会のうちに幕を閉じました。

WEBサイト



YouTube



未来社会デザイン統括本部

自然科学と人文社会科学、さらにはデザインなど多様な研究領域の知を集結して、社会的課題の解決に必要な「理想とする未来社会」と「未来社会に至るプロセス」をデザインし、様々な研究成果を組み合わせることで社会に展開・実装することで、多様化・複雑化する社会的課題の解決に貢献します。

WEBサイト



データ駆動イノベーション推進本部

学内外においてデータ駆動型の教育・研究・医療の展開を推進し、様々なデータの連携・統合及びデータの新たな利用法・価値を創出するとともに、社会的課題の解決に向け、DXによる新たな社会モデルの実現に向けた研究を推進し、新たなデジタル社会のあるべき姿を提案することで社会変革に貢献します。

WEBサイト



10/1

[土]

“KU VISION PITCH 2022”

学生・若手研究者による研究ピッチコンテスト

学生・若手研究者による研究ピッチコンテスト(KU VISION PITCH 2022)をアクロス福岡にて開催。40名の応募から予選審査を勝ち抜いた11名が3分間で自身が行っている研究を熱く発信し、互いに競いました！

YouTube



11/10

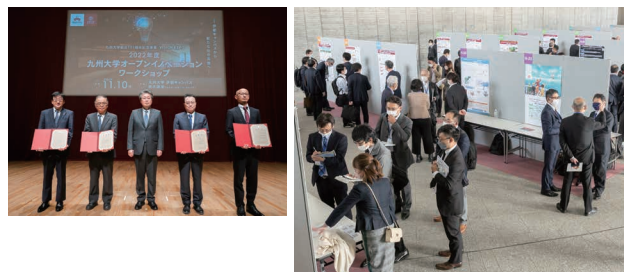
[木]

2022年度

九州大学オープンイノベーションワークショップ
～伊都キャンパスから新たな知の共創へ～

ワークショップの第1部では、本学における優れた産学官連携実績を有する研究者の表彰と、表彰者及び企業による記念講演が行われました。第2部では社会的課題解決に向けた本学の先端研究や企業の取り組みのポスター発表において、参加者による討論が行われました。

ポスターデータ



でもらえると嬉しいですね。工藤さんはどんな課題があると思いますか？

工藤 分野間のディスコミュニケーションです。例えば医療分野では、患者さんへ説明するための分かりやすい医療動画を必要とする人がいて、デザイン分野では、そういった医療関係のデザインをしたい人がいるのに、それぞれをうまくつなげることが難しいんです。

荒殿 なぜ難しいんでしょう。

工藤 私は病院で勤務しているので、最初、医学部と芸術工学部の学生をつなげようと思ったんです。でも、実際にやろうとすると、医学部の学生は忙しすぎるというのがある……。

荒殿 たしかに医学部は先生たちも忙しいですね。でも、少しでもいいから、なるべく若いときから異分野と連携するっていうマインドを作っていきたいですね。医療分野の課題の解決にデザインの力が大いに役立つというようなことを知っておくと、より幅の広いお医者さんになれる気もするし。

工藤 はい。もう一つ、学部生はまだ現場に出る前ということもあって、現場の課題解決を実践することが難しいというのがあります。ただ、実は、タイのマヒドン大学の場合は、医学部の中にデザインの学科があって、その学生が医師のニーズに応じて医療用のイラストや動画を制作するという教育体制ができています。学生のうちから現場の医師に課題をもらって、それを解決しようという仕組みができていくのがいいですね。

荒殿 まさに、総合知で課題を解決する



ということを、先生と学生が一緒に実践しているんですね。九大も、共創学部や基幹教育でそういうことをやり始めています。でも、学生が課題を自分で見つけて、いろんな学部の授業を受けたら、あるいは関係する専門分野の先生に相談したりしながら、総合知で課題解決を実践できる環境をもっと整える必要がありますね。

それぞれが描く未来社会。その実現のために必要な「総合知」

荒殿 立ち上がったばかりのFS本部ですが、ここを中心に九大の総合知を創り出し活用していきたいと思っています。FS本部に期待することがあれば教えてください。

銭 心理学などの人文社会系の視点を積極的に取り入れていただきたいです。さっきの話にもつながるんですけど、利点やエビデンスを提供しても人が受け入れないという意味がないです。行動変容を促すためには心理学の視点も大事なんです。ただ、その心理学も、百年以上の歴史の中で多くの研究がありますが、実は、今の時代にそれを再現しようとするとなかなか同じようにはいきません。今の社会状況や文化が百年前とは全く違うからです。私は今後、フィールドワークなどの手法を基礎心理学の研究に取り入れながら、異分野の方たちと交流することで未来社会のデザインに活かしていけたらいいと思っています。

荒殿 大事な視点ですね。FS本部にはシンクタンクユニットがありますが、大学があるいは大学でやろうとすることにに対して、「本当にやっていいのか」という根

源的な問いを投げかけてくれることをそこには期待しています。倫理的・歴史的な目線で批判してくれる存在、それはやはり人文社会系の視点であり、批判があるからこそより良い未来社会になる、まさに、総合知ですね。工藤さんは？

工藤 学際的な取り組みや研究を評価いただく仕組みを期待したいです。分野を超えた連携というのは、軌道に乗るまでがすごく難しい。連携の話をしても、負担が大きいため躊躇する先生もいます。すぐに成果がでなくても、特に立ち上げの段階で評価されることはとても励みになります。そういう意味で、シンポでの受賞は嬉しかったです。

荒殿 これも大事なことです。こういった連携はすぐには成果が見えにくく、なかなか評価しづらい部分もあるんですけど、何とかしなければと常々思っていました。FS本部は、自治体や企業など大学外の組織とも連携した総合知で社会変革を行っていくことを目指しているのです。そのような取り組みが評価される仕組みをしっかりと考えたいと思っています。

今日は話が聞けて本当によかった。未来社会を考えるには、これから未来を作っていく人たちの考えが何より大事です。若い世代の人たちが自由に活躍でき、彼らの考える理想の未来を作るために大学は何をすればいいか。今日はそのための意見を多くいただくことができました。お二人が理想とする未来社会に向かって、これからもそれぞれの分野を超えた活躍をしてくださることを期待しています。私もますます頑張らなくては！

博士課程の先輩たちにインタビュー!

博士課程の大学院生がどんな研究をしているか?
今回は、九州大学次世代研究者挑戦的研究プログラム『未来創造コース』に
採択されている4名の先輩に、広報室学生スタッフが取材しました。

「ワタシたちが取材しました!」

勝部 菜摘(生物資源環境科学府 修士2年) 疋田 弥紅(芸術工学府 修士1年)
陣内 未来(人間環境学府 修士1年) 中谷 優介(理学部 4年)
重永 日向子(人間環境学府 修士1年) 小川 竜矢(農学部 4年)

自分のやりたいことに 正直でいることが一番!

人文科学府 博士2年
きよすえ
清末 ももさん

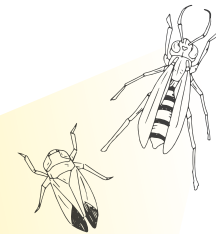


研究者を志し、物事の根本を
探りたいという探究心で倫理学
の道を歩む、清末ももさん。
もともと、学部は熊本大学の歴
史学科でしたが、その時々の問題
関心によって他のゼミや院ゼミ
にも参加し、人文学を幅広く学ん
だ清末さん。大学院入学を機に、
中高生時代から関心がある倫理
学の道へ進むことに。研究テーマ
は、メタ倫理の進化倫理学、つま
り進化論と倫理学、道徳心の関
係を考えることです。
博士課程進学にあたり経済面
での不安は大きく、カツカツなど



きも。未来創造コースの支援で経
済的に余裕が生まれ、研究や進
路について考える時間が確保で
きたそう。コースの中に学際的な
プログラムも取り入れられ、異分
野を学ぶ機会があり、幅広い興味
関心をもつ清末さんにはとても
良かった。
「九州大学には支援制度がいろ
いろあるから、自分にあうものを
見つけて応募してください。まだ
まだ知りたいこと・研究したいこ
とがあるなら博士課程への進学
を検討してみてください」と、現役大
学生にエールを送ります。

昆虫の博士になりたいと思ひ続け



生物資源環境科学府
博士3年 天敵昆虫学研究室
くすはら ひろき
楠原 弘己さん



イネの害虫であるツマグロヨコ
バイの卵に寄生する小さなハチに
ついて研究する楠原弘己さん。害
虫の天敵として農業被害を抑え
得るこのハチは何種類もいます。
その種の構成が地域の気温の違
いによって変わることから、この
ハチが地球温暖化の影響を受け
ている可能性を調べています。
昔から昆虫が好きで、学部の講
義で農業の代わりに害虫の天敵
を用いる生物的防除法に興味を
持ち、修士課程から九州大学で害
虫の天敵の研究を開始。博士課程

では経済的な面で苦労しました
が、未来創造コースに採択された
ことで、アルバイトを辞めて研究
に専念でき、他の採択者とも交流
し自身の視野を広げているそう。
科学における知識の積み重ね
に加わっていくことが研究の原動
力。「博士の研究を論文で残せる
ことが嬉しい。将来、研究者が自
分の論文を引用してくれるかも
しれない。少しずつでも科学の積
み重ねになってくれれば」と、ま
だ見ぬ後輩へ期待し、次につな
がる研究を続けます。

薬学府 博士3年
おやま こうすけ
小山 浩輔さん



「研究者になることが小学生の
頃からの夢だった」と語る、小山
浩輔さん。
鹿児島大学の農学部でマラリ
アのワクチンに関する研究をし
ていましたが、免疫について深く
学ぶため九州大学大学院薬学府
に入学。
研究テーマは「タンパク質の免
疫原性のコントロール」。例えば、
ワクチンは体内で抗体を作らせ
ることが目的ですが、逆にがん治
療に使う抗体医薬品は体内に薬
への抗体ができると効果的に機
能しなくなります。そこで、目的

に応じてタンパク質が抗体を産生
する能力をコントロールできない
か、日々研究しています。
未来創造コースでは、伊都キャン
パスの大学院生とも関わりがで
き刺激を受けたそう。コースの独自授
業では、共同研究がしやすい環境
が育まれて良かったと。小山さん
もきっかけを掴み、現在、農学の研
究室と共同研究を行っています。
「覚悟を持って臨めば、九州大
学は研究環境として最適です。制
度を活用してチャレンジしてみて
ください」。

迷わず博士課程へ。 研究者になるにはいくしかない

ピアニストである 自分だからこそできる研究

芸術工学府 博士2年
にしおか れいな
西岡 怜那さん



研究者の卵と演奏者という二
足の草鞋を履く、西岡怜那さん。
高校卒業後、オーストリアの音楽
大学に。学部から修士課程と演
奏の腕を磨く日々を過ごしまし
たが、コロナ禍で音楽を取り巻く
環境が一変。世間で「音楽は不要
不急」と言われる中で、音楽と社
会の関わりやその可能性を考え
るようになり、心機一転。帰国し、
九州大学大学院芸術工学府で研
究の道へ。いつも自らの傍にあっ
た音楽コンクールの社会や地域にお
ける役割や意義について研究し
ています。
未来創造コースの充実した経
済的支援により研究に集中でき、
異分野の学生との交流で学際的
な研究にも触れる機会が増えた
そう。修了後は音楽家兼大学教
員として、音楽家を志す学生の将
来の選択肢を広げたいと。「長い
時間をかけて1つのことを究明
できる博士課程は有意義な時間
で、絶対に後悔しない。熱意のあ
る人はぜひ博士課程に」と熱い
メッセージを送ります。

九州大学次世代研究者挑戦的研究プログラム 未来創造コース



高い研究能力に加えて俯瞰力、学際性、国際性や幅広く高度なトランスファラブルスキルを育むと
ともに、キャリアパスの拡大にむけた支援の提供に一体的に取り組むプログラム。優れた博士課程学
生が主体的に融合的研究に専念できる環境を整備するため、生活費相当額と研究費が支給される。

問い合わせ先

次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING) 窓口
(学務部学務企画課博士課程人材育成支援室)
E-mail: jisecho@jimu.kyushu-u.ac.jp

学生スタッフが取材・執筆を担当する企画「躍動」。
タイトルは取材に協力した各団体の代表者が書いています。
個性あふれる手書き文字に、団体活動への熱意を感じます。

躍動



トレモロで紡ぐ 青春の100年

イタリア生まれのオシャレな楽器・マンドリンをご存じでしょうか。

マンドリン族の民族楽器であるマンドリン、マンドラ、マンドロンチェロ、マンドローネに加え、ギター、コントラバスからなるオーケストラが奏でる美しい音色。今年で創部100周年を迎え、100周年記念演奏会を9月に開催した九州大学マンドリンクラブの活動を紹介します。

—マンドリンについて教えてください。

松本 マンドリンとは8本の弦からなり、1弦を2セットずつ区切って弾く楽器です。奏法が特殊で、トレモロという奏法をするのですが、ピックを震わせて弾くことで美しい音色を奏でます。マンドリン、マンドラ、マンドロンチェロ、マンドローネ、ギター、コントラバスの5パート6種類の楽器で演奏します。

—ずばりマンドリンの一番の魅力は？

松本 マンドリンの魅力は、やはりトレモロの綺麗さ！吹奏楽などにはない音色で、単音とトレモロを交えて演奏するところの緩急があつて、本当に綺麗で。マンドリンオーケストラならではの楽器の音域の違いによる掛け合いやハモリがとても楽しいです。

—マンドリンクラブに入った理由は？

松本 もともと音楽系に興味があつて、コロナ禍前ですが、新歓で盛んに声かけていて、その雰囲気が良いって。サークル全体の雰囲気が良いって理由で入った人は多い気がしますね。

—活動場所と活動頻度を教えてください。

松本 週末の土日に全員が集まって練習していて、土日の片方は課外活動施設Ⅱに集まります。各パートごとに、パートのマスターが指導しながら、難しいところや合わせるところの練習をします。平日は、授業が終わった後や空いた時間に課外活動施設Ⅰのピロティで自主練習です。

—年間行事について教えてください。

松本 まず春の新歓で、教室ガイダンスの際に演奏して1年生を呼び込みます。5月に春の定期演奏会があり、1年生は出られないんですけどお手伝いしてもらいます。そのあとはしばらくオフ期間で、9月に2回合宿があり計2週間くらいずっと一緒にいるんですよ。11月末頃に冬の定期演奏会があつて4年生は引退し、サークルは新体制になります。1月に4年生へ向けた卒業演奏会で新体制のお披露目を行います。あと3月にも春合宿がありますね。勉強やアルバイトとの両立は大変ですが、部員たちの雰囲気がとても良く、楽しく練習に励んでいます。

—100周年記念演奏会を

開催したなかで、印象深かったこと、苦労されたことは？

松本 OBの方々がすごく思い入れを持って取り組まれていて感激でした。クラブを引退した後も社会人の団体に入って演奏されていたりして、練習や本番でも音圧がすごかったです。後ろから聴こえてくる音も、100人で演奏したんですがその迫力に感動しました。OBの方と一緒に活動して、マンドリンクラブの伝統が100年もつながってきたことを改めて感じました。一方、定期演奏会とは違い規模が大きくて、クラウドファンディングなど新たに取り組んだりもして、先輩やOBの方もわからないことばかりで苦労しました。

—高校生へのメッセージをお願いします。

松本 これから大学で音楽系の活動をしたけれど全然未経験だし、マンドリンについて聞いたこともないという方は、ぜひちょっと覗いて欲しい。演奏会を聴く機会がありませんからこそ、1回触れて欲しいなっていうのはありますね、良さがけっこうあるので。そして次の100年も、マンドリンクラブが続いて欲しいです。



工学部4年
まつもと たつや
松本 達也さん



▲HPはこちら

Data

◎ 部員：47名(2022年11月1日時点)
◎ メンバーの学年：学部4年：13名、3年：8名、2年：12名、1年：14名
◎ 活動場所：課外活動施設Ⅰ・Ⅱ ◎ 活動日：不定
◎ 問い合わせ先：
HP: <https://qmc.sakura.ne.jp/>
Twitter: <https://mobile.twitter.com/kyudaimankura>
新歓用Twitter: <https://mobile.twitter.com/qdaimankura2022>

この記事は広報室学生スタッフが制作しました。

千葉 涼太郎(農学部3年) 谷口 愛実(共創学部4年)

留学生体験記

ようこそ九州大学へ。今回は、インドネシアからの留学生をご紹介します。
日本での暮らしぶりや、九大での研究について語っていただきました。



Selvia Noviantyさん
(セルビア ノビアンティ)
理学府 地球惑星科学専攻 国際コース
博士後期課程2年

出身国:
インドネシア

インドネシアのバンドン工科大学を卒業。地質学を専攻し、在学中から多くの研究室や企業で経験を積んできたセルビアさん。現在は火山学の研究を行っています。

MY FAVORITE!



研究室の仲間と北海道にて。ラボメンバーは、日本について多くを教えてくれる代えがたい存在。



免許を取得して、熊本県阿蘇まで友人とドライブに。運転をがんばって、やーっとリフレッシュ！

Q 本国ではどんな研究を？

インドネシアのバンドン工科大学で、地質学を専攻していました。子どもの頃から自然探索が好きで、地質学に興味を抱いたのも自然な流れでした。大学では研究室に泊まり込むことも多く、岩石や恐竜の骨に囲まれて眠っていましたよ(笑)。企業で働く機会にも恵まれましたね。PT. ANTAM, Tbk(アンタム)という鉱業の会社では、どの地域に金の採掘の可能性があるかを調べて地図に落として、発表したりしていました。

Q 日本への留学のきっかけは？

幼い頃に日本のアニメを見て、いつか行ってみたいという思いを持ち続けていました。イギリス、カナダ、ニュージーランドと、更なる研究のために留学先を検討していたところ、当時の先生が秋田大学の先生を紹介してくださいましたが、私は寒いのが苦手です。最終的に九州大学を選んだのは、何より研究室で行えることが自分がしたいことに近かったからです。

Q 現在はどのような研究を？

私は、火山学を学びたくて日本に来ました。当初はインドネシア東部の海底火山を研究する予定でしたが、コロナのため中止せざるを得なくなり、

計画を変更しなければならず、つらかったです。そんな時に研究室の寅丸先生が、鹿児島島の鬼界カルデラの研究はどうかと提案してくださいました。このカルデラは7300年前に超巨大噴火を起こし、九州の大部分に被害を及ぼした海底火山です。堆積物のサンプルを採って分析し、物理方程式で出した答えと比較しながら、なぜ噴火が起こったのか、将来も起きる可能性があるのか。そのようなことを研究しています。

Q 研究中の思い出深いエピソードは？

鬼界カルデラ以外にも、平成新山に阿蘇山、久住山、由布岳など、九州へ来てから、たくさんの火山を訪れました。その中でも平成新山では、立ち入り禁止区域にまで入ることができて幸運でした。もちろん許可を得てですよ。何度か怖い思いをしました。ロープを使って慎重に登り、上空にはヘリコプターとレスキューの方が待機し安全を確保しました。今でも年に2回ほどは訪れて、調査やメンテナンスなどの作業を続けています。

Q 休日はどのように過ごしてる？

アニメ鑑賞やハイキング、ドライブが大好きで、2年前まではインドネシアからの留学生が他にも何人かいて、週末になると旅行へ出かけていました。みんな地質学が専門だったので、自然が

多い場所を訪れると楽しかったですね。これまで友人に車を出してもらっていましたが、最近、運転免許を取得したので自分で運転して阿蘇や宮崎などへのドライブを楽しんでいます。

Q 今後のビジョンは？

日本でキャリアを積み、自分自身をもっと探求し続けたいと考えています。また、インドネシアは火山や温泉という環境が日本と似ているので、こちらでの火山のデータを持ち帰ることができればかなり貴重な資料になると思います。これから日本へ留学を考えている方には、九州大学はとてもおすすめです。研究のための環境が整っているし、留学生も多く国際的な経験ができます。ぜひ、九大を第一志望に！



研究の一つひとつが貴重な宝。日本での火山データが、いつか世界で活用されると信じて。

世界から九大へ 九大から世界へ

KYUDAI GLOBAL STUDENTS

世界のキャンパス

コロナ禍の中、海外留学を体験した九大生に、留学先でどんなことを学び、どんな暮らしをしていたのか語ってもらいました。

坪川 智咲さん
(つばかわ ちさき)
経済学部3年



留学国: タイ
留学先: チュラロンコン大学
期間: 2022年8月～2023年5月

新たな環境での挑戦が 自分を見つめ直すきっかけに

私は、2022年8月からタイ・チュラロンコン大学に交換留学中で、ファイナンス等を中心に英語で授業を履修しています。私が「タイ」を留学先を選んだ理由は、東南アジアの経済発展を実際に感じてみたいと思ったからです。

授業は、1コマ3時間と日本より長く、レクチャーが中心ですが、グループワークや実業

家の話を聞く授業も多くとても面白いです。特に、実際にタイにある企業の財務諸表などを分析して、架空の投資家にプレゼンするのが印象的でした。海外から見た日本の企業の印象も感じることで新鮮です。休日や放課後は、英語ディベートサークルで活動したり、街に行ってみたりしています。今回の留学を通じて「挑戦することは大切」だと感じています。日々の何気ないことから、新しい発見や自分のアイデンティティを改めて考えることができるからです。

また、留学生活は小さな挑戦の連続で



大学と寮が、サイアムというタイの若者が集う街に近いので、よく遊びに行っています。

大変なこともあります。これも留学の醍醐味だと思います。

コロナ禍ですが、多くの人の支えもあり、留学できて心からよかったと思います。私は、高校生の頃から大学での留学を考えていて、大学に入学後は、留学に行くために自分ができることを探して取り組みました。これから留学を考えている方は、学内にいる様々な国際交流活動にぜひ参加してみてください。私も残りの留学期間、楽しみながら頑張っていきたいと思っています。

留学生のごはん事情

普段は学食で食事を済ませます。野菜と肉の炒め物をご飯の上にのせる料理のお値段は30バーツ(約120円)。おかずをご飯の上にのせる「カオゲーン」は、タイではポピュラーな食べ物です。



これは「ロティ」というタイ風クレープです。通常は折りたたまれた状態なのですが、こちらはタワーのように盛り付けられています。ロティはタイでは手軽に食べられるデザートですが、かなり甘めです。その甘さが癖になりますよ。



タイでは、大学生も制服を着ることが一般的で、街中でも制服を着た大学生を多く見かけます。

留学情報はこちら！
<https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study>



チュラロンコン大学

タイ王国初の公立大学として、国王ラーマ6世により1917年に創設された、タイにおいて最も古い歴史をもつ、権威ある国立大学。キャンパスはバンコク市街に位置し、大学名の「チュラロンコン」は、タイの近現代教育の立役者であるラーマ5世(創設者の父)の名に由来している。「チュラ(Chula)」という愛称でも親しまれ、現在は19の学部(Faculty)に加えて約20のカレッジ・研究機関を有している。タイの国内ランキングでは常に上位に入る最難関の総合大学である。

川下りのように 流れに身を任せ 興味を追い求めて

九大ではバドミントンサークルで活動していた



法学部 2017年卒業

株式会社日本総合研究所／研究員

吉村 早紀

よし むら さ き

吉村 はい。自動車メーカーは、やはりグローバルに展開していることが魅力で就職しました。営業と世界各地にある工場との間に立つ仕事をしていたのですが、特にやりがいを感じたのは、現場の問題解決の仕事です。解決後に「ありがとう」と感謝されることがすごく嬉しくて。この経験が、もって誰かの役に立つ仕事をしてみたいという新たな挑戦につながったように思います。

卒業後はまず大手自動車メーカーに就職されましたよね？

吉村 はい。自動車メーカーは、やはり

大学時代の思い出深い出来事は？

吉村 交換留学ですね。3年生の後

から、10カ月ほどスウェーデンのストックホルム大学に通いました。法学に限らず、社会福祉やジェンダー論も学びました。当時は外交官に関心があったので、大使館でインターンもしました。

法学部では、どのようなことを学びましたか？

吉村 憲法学ゼミと国際政治学ゼミの2つに入っていました。憲法学のゼミでは、論文を報告してみんなで議論するのですが、私は統治行為論や違憲判決の効力に関するものを報告しました。国際政治学のゼミでは、世界で起きている問題、例えば水問題や人権問題を事前に学習して討論する感じでした。そのゼミでCSRともいわれる企業の社会的責任について学び、とても興味を持ちました。

現職の日本総研での仕事内容は？

吉村 企業のコンサルタントをしています。内容としては、サステナブル経営の推進です。これはまさに大学のゼミで学んだCSRが時代とともに進化したもので、興味を持ち続けていたことでした。転職した理由のひとつでもあります。民間企業は経済的な合理性を追求していくイメージがあるかもしれませんが、今は社会や環境を伴った合理性を求められる時代です。最近だと、SDGsという言葉をよく耳にしますよね。そういった取り組みを積極的に実施しているか評価する外部機関もあつて、どうすればリンクを上げられるかなど、企業経営の分析や提案をしています。

最後に、九州大学を目指す学生や現役九大生にアドバイスをお願いします。

吉村 もし将来の目標が定まっているなら、山登りするようにコツコツと勉強して夢という頂点を掴んでください。将来がぼんやりしているなら、川下りするように流れに身を任せて興味があることを。私は後者でした。留学やゼミでの学びが、今につながっています。東京で働いています。九大のブランドやクオリティは、どこでも通用すると感じていますよ。



大学時代、友人と旅行で訪れた長崎にて

大学生活も残りわずかとなり、本格的に進路を考えなければならない中、私と同じ学部を卒業された吉村さんのお話を伺えた事は大変貴重な経験となりました。海外留学や転職など、さまざまなことに積極的に取り組まれている姿勢がとても印象に残っています。

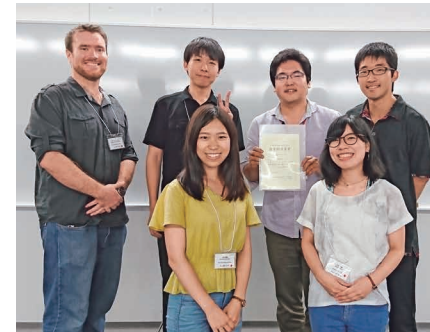
自身が納得のいく結果を得られるよう、変化を恐れずに挑戦し続ける事の大切さを実感できました。



聞き手 白井 海斗 法学部3年

※聞き手の学部学年は取材当時のものです。

「広く学んだ 「ヒト」の生物学 研究に生かす



修士課程のとき参加した政策討議ワークショップにて、表彰後にグループのメンバーと

医学部 生命科学科 2018年卒業

医学系学府 医科学専攻 修士課程 2021年修了

警察庁科学警察研究所／研究員

白井 詩織

うす い し おり



どのような大学時代を過ごされていましたか？

白井 生命科学科の独自のシステムで、在学中に色々な研究室を体験できるため、とにかく興味があったり、面白そうだなと思ったら研究室を7室ほど体験しました。ウチトと呼ばれる生物学的な実験から、ドライと呼ばれるコンピューターで解析などを行う研究まで幅広い分野を学ばせてもらいました。

たくさんの研究室を体験されたんですね！

白井 これは本当に生命科学科の大きな魅力です。医学科と同じカリキュラムで基礎医学を学べ、多くの研究室を体験できる。解剖学、細胞生物学、ウイルス学、細菌学など広範囲で生物学を学べたおかげで、ヒトという生物の基礎知識を得られました。だからどんな研究でも「あ、これ聞いたことがある」と思える要素があります。

今の仕事について教えてください。

白井 科学警察研究所科警研という警察庁の附属機関の研究員です。現在は「骨」と「顔」を担当する生物第二研究室に所属しています。具体的には、どこで骨のようなのが見つかった場合、まずはそれが骨か。そして次に人獣鑑別。もしも人であった場合、それがどんな人の骨なのかを鑑定していきます。小さな骨からさまざまな情報を割り出せるのです。

ドラマなどでよく聞く科捜研とはどう違うのですか？

白井 科捜研は全国にある各都道府県警察の組織で、科捜研は国の組織です。例えば地方で起きた事件のDNA検査は科捜研で行うことがほとんどですが、科捜研でも困難な鑑定がある場合は、科捜研に鑑定嘱託として回ってきます。

また、科捜研は鑑定がメインで、科警研では科学捜査に関する研究開発も行っています。科捜研職員の研修なども行っているの、教育の面での業務があるのも特徴。「研究開発」「教育研修」「鑑定検査」というのが科警研業務の3本柱です。

科警研にはどんな人が向いていますか？

白井 行政の機関なので、将来的に役立つ研究や警察関係の研究がメインです。純粋な興味関心で学術的にももしろい研究をするよりも、人の役に立つ研究をしたい、自分の研究で日本の社会全体をよいものにしていきたいという人にはぴった리だと思います。私もこれからさまざまな研究を行って、業績を残していきたいです。

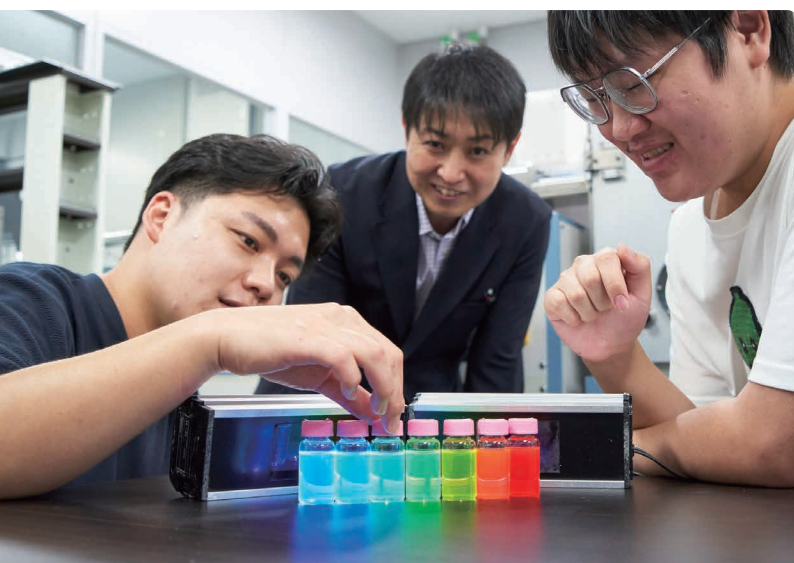


医学部の同級生と共に参加した歌とダンスを中心としたワークショップにて

生命科学科で学んだ後の将来について漠然とした不安を持っていたので、学んだことを生かして活躍する白井さんのお話を聞くことができたのは大変貴重な機会でした。ヒト限定ではあるものの、生命科学を満遍なく学んだ自分たちは、生物学が関わるとの分野に進んでも活躍できると気づかせて頂きました。自分も学びを生かし、頼りにされる研究者になりたいと思いました。



聞き手 深田 幸平 医学系学府 医科学専攻 修士1年



[上]究極の有機発光材料の開発を目指す [下]グローブボックス中でのデバイス作製

例えば、私たちがよく知っている太陽電池はシリコンでできており、黒っぽい色、どっしりとした形状で住宅の屋根などに設置されています。これを有機半導体で作れば、薄くて軽くて紙のようにフレキシブルで、色やデザイン性に富んだ太陽電池を作ることが可能となり魅力的です。しかし、耐久性が高い無機のものに比べ、有機だと強い太陽光を浴び続けると劣化してしまう問題も。無機には無機の良さがあり、有機には有機の魅力がある。適材適所で選択していくことが大切です。安田研究室では、化学の力を最大限に駆使し、秀逸な機能や面白い特性を持つ有機材料やデバイスの開拓を目指して、学生・研究員が協力して日々研究に取り組んでいます。

幅広い研究ができるのが安田研究室の特徴。厳しくも優しいチームメイトの絆。

分子設計・合成から、物性解析、デバイス評価まで横断的に研究を展開しているのが、安田研究室の大きな特徴。学生・研究員の多くも、ひとつの工程だけに留まらない幅広い経験ができるところに魅力を感じて所属を決めたそうです。通常だと物理系の研究者がフラスコを使う合成実験を行うことはありませんが、安田研究室では全メンバーが九州大学のスーパーコンピュータ（I-T-O）を使つての量子化学計算や有機合成、半導体デバイス評価など、横断的に研究を行っています。他の研究室では担当が分かれている工程も、ウチでは全部自分の手でやるこ



有機材料の研究で世界へ羽ばたく

新機能の開拓、未知なる可能性を秘めた機能有機材料の世界

2014年に九大伊都キャンパス内の稲盛フロンティア研究センターにて発足した安田研究室。機能有機材料化学を専門とする安田琢磨教授を筆頭に、現在20名の学生・研究員が在籍しています。IoT社会の進展を見据え、さまざまな機能性をもつ新しい有機材料を数多く創出し、有機エレクトロニクスデバイスの開発へと研究を展開してきました。

まだ見ぬ新しい有機材料の創出を目指し、やがては社会に役立つデバイスへ。

有機材料の中でも特に光、電子機能に注目しているという安田研究室。光ったり、電気を流したり、刺激で色が変わったりする有機化合物が研究の主役です。現在、私たちの身の回りでは、シリコンベースの無機半導体を基盤としたエレクトロニクス技術が広く社会に浸透していますが、安田研究室では有機化合物でできた有機半導体を主な研究対象としています。有機半導体に関しては、1950年頃に生まれた比較的新しい研究分野ですが、なぜ安田研究室はこの有機半導体に注目しているのでしょうか。



有機合成により新しい材料を創出する実験風景

とができる。それはとてもやりがいがある素晴らしいことです」と研究室の皆さん。安田研究室で研究したい！と、海外からやってくる人が多いのもうなずけます。

一連の研究を行うことで知識や経験は増えていきますが、反面、その幅広さによる大変さも実感する毎日。ときには思うように化合物の合成ができないなど、研究に焦りを感じることもあるそうですが、安田教授をはじめ研究室のメンバーはチームメイトという絆があり、ときには厳しく、そして優しく支え合っている姿があります。「最近の学生、特に日本人はおとなしい学生が多いと感じます。私が学生の頃は、実験中もずっと話をしていました。大半は無駄話ですが、そこから有益な研究の議論に発展することもあると思います。そんな安田教授の想いから、毎週金曜日の午後には自由参加型の「Tea Party」を開催するように。参加したメンバーは、日本語や英語を使って研



毎週Tea Partyでは日本語と英語が飛び交う



工学部修士1年 陳梓濤さん

どうしても安田研究室に入りたくて中国から来ました。国際的な視野をもっと広げたい!



工学部修士1年 久保七海さん



工学部4年 渡邊駿さん

メンバー全員でBBQをしたり野球観戦をしたり、研究以外にも楽しいことがたくさん!



工学部修士2年 槌井雄一さん

安田研究室のメンバーは皆、向上心もレベルも高い! 刺激を受けて頑張れる環境です。



工学部4年 浦川莉子さん

教授や先輩との距離が近く、とても良い雰囲気の研究室です。安心して勉強できます。



工学部修士1年 李俊沅さん

専門用語などは言葉の面で大変なこともあるけど、楽しさの方が大きい毎日です。



古人骨資料展示写真

箱崎だより 「九大博の古人骨資料開示室」

九州大学総合研究博物館 助教
米元 史織

当館には、弥生時代の古人骨資料を中心として縄文時代から古墳時代、そして江戸時代までの約3000体の遺跡出土人骨が収蔵されています。九州大学医学部第2解剖学講座の教授であった金関丈夫（1897-1983）、永井昌文（1924-2001）が中心となって1953年

小学6年生で使用する日本文教出版令和3年度発行の小学社会（上）の教科書に「米作りは、今から2400年ほど前に、大陸や朝鮮半島から移り住んだ人々によって伝えられました。米作りは、九州の北部から東日本へと広がり、人々の食生活は、米が主食となっていました。（中略）このように、米作りが本格的にはじまり、各地に広がっていた時代を弥生時代といいま

す。」という記述があります。全体として270ページある教科書の中に数行で記載されている内容、これは多くの年月を費やして形質人類学・考古学の分野で行われた研究の成果の一つです。この歴史的過程を明らかにするための証拠の一つとなった弥生時代の古人骨資料が、古人骨資料開示室には展示されています。

以降発掘・収集した資料群です。これらの資料は1994年9月1日をもって動物骨格標本とともに比較社会文化研究科に、2005年10月に九州大学総合研究博物館に移管されました。日本列島に住む人々の顔かたちはどのように変化し、その変化の要因は何であったのか、という日本の歴史、さらには人類の歴史そのものと深く関連する重要な学術資料です。



古人骨資料開示室全景



縄文時代人骨

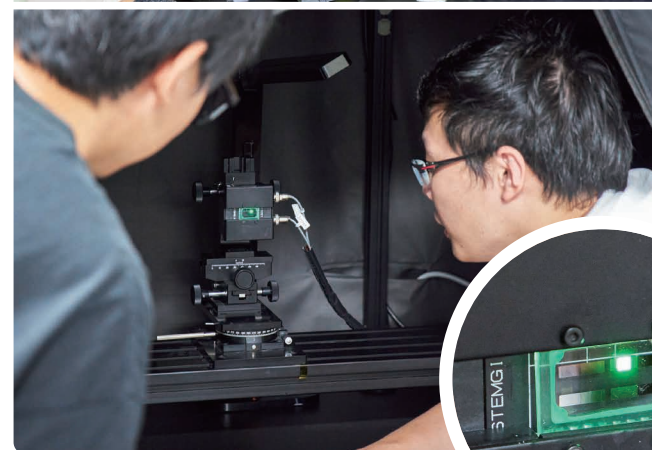
弥生時代人骨

力が資料の維持に費やされています。そして現在も、国内外の多くの研究者達が研究を行い、形質研究からDNA分析やストロンチウム分析などの理化学分析まで様々な研究成果が提出されています。日本の歴史の一端を明らかにした重要な資料が変わらず未来に存在することで、これから先も様々な研究が行われ、今よりも詳細に日本の歴史、さらには人類の歴史が明らかになっていくと思います。本開示室は九州大学で行われている様々な研究成果を、その成果の要である学術標本と一緒に実感しながら見ていただける重要な空間になっています。



材料化学の研究は、宝探し。
諦めずに努力を続ければ
きっと成功(宝)を掴めるはず。

安田研究室に所属する学生・研究員は、皆目標とする物性や機能を担ったオリジナル分子をデザインします。論文では一見簡単そうに見えても、実はとても根気と努力が必要です。結果的に、合成に成功しないことや目指す機能が発現しないことも。「そういった意味では、材料化学の研究は宝探しと似ている気がします。宝がどこにあるかという鋭い嗅覚、それを掘り起こすための根気や忍耐、気合いなどが必要になるでしょう。まずは、自分の研究を好きになって面白と思うこと。その上で自分の信じたものを諦めずに、コツコツと努力を積み重ねられる人は材料研究には向いていると思います」。安田教授と学生・研究員の皆さんは、今日もまだ見ぬ新しい宝と出会うために、研究に目を輝かせています。



[上]有機トランジスタの評価 [下・右下]検査機上で光輝く有機EL

現在、安田研究室では、複数の民間企業との共同開発も進行中です。2013年からスタートした株式会社リコーとの共同研究では、室内環境で特に優れた発電性能を発揮するフレキシブル環境発電デバイスが開発され、すでに実用段階まで進んでいます。また、その他にも有機ELの共同研究なども活発に

研究を好きになって、とことん楽しむ。
その想いから生まれたもので社会貢献を。



進められており、近い将来、安田研究室から生まれた有機材料が利用されたスマホなどを手にするときに来るかもしれません。「私たちの分子技術が社会に活用展開される。材料化学に関わる研究者にとって、これほど嬉しいことはありません。しかし、根底にあるのはあくまでも基礎研究を大切にしたいもの。その結果として、社会貢献へとつながれば理想的です」。まずは心が動かないと研究に夢中になれない。安田研究室に所属する学生・研究員の目がキラキラと輝いているのは、安田教授の研究への熱い想いを受け継いでいるから。『好き』『楽しい』という純粋な気持ち、そしてチームワークを大切にしながら、新たな研究にチャレ

やすだ たくま
安田 琢磨 教授

2010年九州大学大学院工学研究院応用化学部門准教授として着任。2014年九州大学稲盛フロンティア研究センター教授、安田研究室発足。2022年より九州大学高等研究院教授。専門は機能材料化学、物理有機化学、光化学、有機エレクトロニクス。

「One molecule can change society」(ひとつの分子が社会を変える)大げさかもしれませんが、そんな想いで毎日研究を行っています。もしも自分たちの開発した発光材料が、毎日使うスマホのディスプレイに実装されたら…。想像するとワクワクしてきませんか？そのワクワク感が新しい有機材料を開発する第一歩です。「好き」「面白そう」という純粋な想いを大切に、一緒に研究を進めていきましょう！」

未来を変えるかもしれない
分子との出会いが
ここにはあります



芸術工学部の歴史は、日本のパウハウスを目指して設立された九州芸術工科大学にはじまる。2003年に九州大学と統合され、今がある。卒業生たちは、どんな面白いことをしているのか。『渾沌会』を運営するメンバーたちのインタビューを、どうぞ。



渾沌会 理事/ONE SWORD株式会社 代表
あべ けんたろう 音響設計学科38期
安部 謙太郎さん 2005年入学

渾沌会 副会長/株式会社Primo 代表取締役
あだち まさと 画像設計学科23期
安達 昌人さん 1990年入学

渾沌会 会長/会社員
いとう かん 環境設計学科20期
伊藤 寛さん 1987年入学

(後列左から2番目) フリーランス
いいだ みおる 工業設計学科49期
飯田 実さん 2016年入学

※インタビュー当日は芸工アプリの学生チームで活躍する在校生も参加してくれました。

場づくりもデザインのひとつ。

渾沌会は、発信型コミュニティへ。

卒業生と学生が共同でつくる
芸工生のためのアプリ

卒業生の方だけでなく、学生も一緒に
盛り上がっているのが伝わります。
他にもそういう活動が？

安部 ひとつに『芸工アプリ』がありますね。渾沌会と学生が共同で運営しているアプリで、学生と卒業生、教職員のみが参加できるクロズドのSNSです。登録者のプロフィールを閲覧できたり、作品や活動のアーカイブ機能があります。アプリの機能自体はまだ限定的かつ開発予算もかかるので、学生チームによるメディア発信やオフラインイベントでコミュニティを盛り上げながら少しずつ機能を追加して、より多くの価値があるプラットフォームアプリを目指しています。その一つが学生の声やアンケートから生まれた時間割機能です。
在校生 時間割機能は、すごく使いやすく助かっています。その他に僕たちがアプリを活用したのが、クラウドファンディングです。学祭で使う機材が古くなってしまつて、芸工アプリを通じて資金面のサポートを卒業生のみなさんをお願いしました。あつという間に目標金額を達成したので驚きました。
安達 誰がお金を出したかと言うと、昔機材を使って活動していた方々です。自分たちはその活動をアピールして就職できた



『芸工大宴会online』学内にスタジオをつくり、様々なコンテンツを配信。

けど、後輩たちはできなくなる。未来を閉ざすことになると思つて快く出資してくださつたと思うんですね。芸工愛です。
飯田 クラファンは、芸工アプリが学生と卒業生をつないだ良い事例だと思います。アプリはまだまだ発展途上の段階で、次は卒業生同士をつなげられないかと。たとえば仕事のマッチングです。同窓生というのが共通ワードで、同じ大学を出た人なら安心感がありますし、仕事を頼みやすいですね。同窓会というチャネルを使ってくれたら可能性が広がるかと、今まさに水面下で動いているところで。

芸術工学部創立50周年を節目に
変わりはじめたコミュニティづくり

渾沌会は、芸術工学部(以下、芸工)が
50年を迎えた年に大きく変わったと？

伊藤 一般的に同窓会というと、名簿の管理や懇親会の開催という感じですよ。私もそのような活動をしていて、卒業生を招いて学生と交流する『シゴト道』なども開催してはいましたが、もっと役員や運営メンバー自身が楽しいと思える活動をしたいと、今後は続いていかないという思いがあったんです。こちら側から楽しさを発信して、向こうから寄つてきてもらう。そんな発信型の同窓会にできないかと舵をきつたところ。安達 2018年が芸工の50周年だったんですが、ここ4〜5年で新しい活動が加速した感じがあります。というのも、50周年の記念事業に多くの学生が参加してくれたんですね。同窓会は年配の方たちが集まるイメージがあるかもしれませんが、その事業を機にベクトルが若い世代にも向いていったという流れがあります。

節目となった芸術工学50周年記念事業は、
盛大なイベントだったのでは？

一同 あれはすこつたよね！

安達 芸工の50年を振り返る展示やトークディスカッションなど盛りだくさんのイベントだったんですが、約千人も集まりました。会員が約1万人なので1/10が来た(笑)すごい数ですよ！

伊藤 50周年のあのイベントは、レガシーです。学生も巻き込んで企画して、あれから渾沌会と学生とが一緒に進みだした感じはありますね。

ユニークなアイデアが、
次々とカタチに

芸術工学部は多分野の学科があるので、
卒業生の活躍の場も広そうですね。

安達 そうですね。これは居酒屋トークからはじまつたことですが、優れた卒業生を表彰する『ゴールデンフライパン賞』というものをつくりまして。当然、誰を表彰するかという話になりますよね。芸工は、芸術と工学の融合をビジョンとして掲げています。そこで、コーディング・エンジニア、プロデューサーとしてグラミー賞を3度受賞した八木慎治さんにトロフィーを受け取ってもらふことにしました。

伊藤 卒業生にはレジェンド的な方が多くいます。でもできれば現役でちょっと若く、身近に感じられる人が選ぶポイントだったかな。八木さんが第1回の受賞者なので、次からはフライパン賞を知った卒業生から「こんな人もいるよ！」と推薦してもらえるのが理想ですね。

『芸工アプリ』芸工生による、芸工生と学生をつなぐ、卒業生と卒業生をつなぐ、まさに現代のコミュニケーションツールとしてアップデートを続ける。

芸工アプリ



2018年、芸術工学部の創立50周年を記念してイベントを開催。集まったその数、約千人！

「コロナ禍の中で行われた、オンラインのイベントもあったそうですね。」

伊藤 『芸工大宴会online』ですね。これも好評で、2020年度と2021年度の2回開催しました。テレビ局のようにチャンネルをつくって、司会を立てて。映像に音響にと、スキルを持った卒業生が多いんです。キャンパスがある大橋(福岡市南区)の街を中継したものなどは盛り上がりましたね。

安部 渾沌会には、九州の本部、関東支部と関西支部があって、今まではそれぞれがリアルイベントを定例でやっていたんです。オンラインだと別々にやる必要がないよねと。全支部、さらに海外の卒業生までつながったことは大きかったです。学生にとっては、関東や関西や世界の思っかいまで感じられたのが良かったと思いますね。



在校生へ向けて第一線のミキシングテクニックが披露された。



第1回ゴールデンフライパン賞の授賞式。(写真左:八木さん、右:渾沌会事務局長の河原一彦准教授) フライパンは、キャンパスにある広場の形からきている。芸工生にとってフライパンは、皆のキーワードです。

楽しいアイデアが次々と出ていますが、
最後に渾沌会の今後の展望を
お聞かせください。

安達 アプリでコミュニケーションをとるのも芸工らしいですが、どこかでリアルに接する場も要りますよね。これはまだ妄想段階ですが、芸工バーをつくるとか(笑)。
伊藤 芸工バーもそうですけど、自分たちは同窓会という型にはまらなくていいと思っています。近いうちに渾沌会のビジョンを話し合うワークショップがあるので、どんな企画ができるか私たちも楽しみです。学生にも、これから芸術工学部に入學する方にも、卒業後にまでユニークなコミュニティがあると感じてもらえたら嬉しいですね。

九州大学基金のお金って 何に使われているの？

課外活動をサポート！

課外活動支援

農学部 生物資源環境学科3年
わたなべ かえで
渡邊 楓



イベントで披露する演技の練習

■ チアリーディング部 ETOILES(エトワールズ)

現役18名、引退した4年生5名の総勢23名で活動しています。歴代最高得点を目標に練習に励んでいます。

■ スローガン

私たちのスローガンは「繋ぐ(つなぐ)」です。現役部員の1～3年生は、コロナ禍で活動が制限される中で入部しました。そんな私たちの使命は“今までの伝統を繋ぎ、更に繁栄させること”だと信じて、このスローガンを掲げています。

■ 基金の支援

本番の大会では専用のマットを7枚使用します。しかし、予算不足などで部には5枚しかありませんでした。そこで練習を円滑に進め実力を高め上を目指していくために、基金の支援を申請することにしました。支援を受けて新たに2枚購入してからは、大会の会場に立つのと同じ状態で練習ができるようになりました。

■ 寄附者のみなさまに一言

大会で落ち着いた演技ができること、いつもの実力が発揮できることは、整った環境で練習ができてからこそだと思っています。本当にありがとうございます。

■ カイコ×アリ×デザイン

現在進めている「biocouture (bio=生物、couture=仕立て)」プロジェクトでは、人間が環境を整え、カイコに素材を紡いでもらい、それをクロトゲアリの巣作りの習性を利用して衣服用に縫製してもらうという実験をしています。服飾業界が環境に与える影響は非常に大きいといわれていますが、カイコとアリの生命力だけで作っているため原料費や輸送費などゼロ、CO2も全く出ません。

研究プロジェクトを助成！

チャレンジ&
クリエイション
(C&C)

■ 社会実装

例えば、ミツバチは蜜を、カイコはシルクを提供してくれて、人と共生しています。アリもミツバチと同じ社会性のある昆虫です。今回はアリが糸を紡ぐ習性に注目しましたが、そういった習性を技術としてアリのお願いができるようになれば、養蜂や養蚕のように人と暮らすことができるようになるのではないかと考えています。いずれは人々の価値観を変えて、社会実装の段階まで進めていくのが目標です。

■ 寄附者のみなさまに一言

C&Cは学生の未完成なプロジェクトでも支援していただけるため、失敗を恐れずにチャレンジでき、本当に感謝しています。

生物資源環境科学府
博士3年
いけなが てるみ
池永 照美

池永さんが持っているのは
カイコが紡いだ生地



カイコとアリがコラボしたデザイン

未来を築く探究心旺盛な学生の活動を支えます。

九州大学基金では、みなさまからの温かいご支援のもと、「研究」「学生」「施設整備」などを対象にした様々な事業を実施しています。今回はその中で特に学生を対象にした事業の一部をご紹介します。みなさまのご支援を受け、生き生きと活動する学生の声をお届けします！

海外留学
渡航支援

海外留学の負担を軽減！



留学先のジョージ
(一生物です！)

■ 留学のきっかけ

高校の時、留学を経験した友人の話を聞き多くの刺激もらったことが留学を意識し始めたきっかけです。

■ コロナ禍での留学

周りの先生や留学課の方々の協力もあり渡航を実現することができました。特に、留学課とのメールは100通を超えていて、留学課の方にとって忘れられない留学生になったと思います(笑)。



留学先で友人たちと

■ 留学先での経験

アメリカ留学を通じて、日本では経験できない学びや気づきがたくさんありました。住み慣れた国を離れ、言葉や環境の異なる国で生活したことで何事に対しても積極的に挑戦するようになりました。インターネット等で海外に関する情報は多く手に入りますが、実際に現地に行くことでより多くの人と出会うことができ多くの学びがあります。

■ 寄附者のみなさまに一言

支援のおかげで充実した留学生活を送ることができました。この経験を活かし、日本の経済成長を支え、世界を舞台に活躍できるようなビジネスパーソンを目指したいです。

■ 夢

私の夢は「生命の起源を解明」することです。生命の起源についてはずっと興味を持っていましたが、春休みのインターンでJAMSTEC(海洋研究開発機構)の「ガチンコファイト航海2021」に参加して、生命が誕生した場所といわれる熱水噴出孔を目の当たりにしたことで、改めて強く自覚するようになりました。



「ガチンコファイト航海」で同乗者たちと

■ 日々の過ごし方

日中は授業をこなして夕方以降はラボにいます。周りの先輩方の研究への姿勢から学ぶことが多く、刺激を受けています。

■ 山川賞の存在

夢の実現には勉強と研究が必要で、その後押しをお願いしたくて山川賞に応募しました。受賞が決まった時は、これで自分の計画が加速できる!と安堵しました。不安を抱えていると自分のやりたいことに集中できないので、金銭面の支援は助かっています。自分のやりたいことに集中できるのが山川賞の一番のメリットですね。

■ 寄附者のみなさまに一言

やるべきことをまっすぐやっていくことが支援に応えることになると思っています。夢に向かって進み続けます。ありがとうございます。

理学部 生物学科2年
しま あきと
島 堯杜

山川賞



次代を担う 若者の活動を支援！

SNSでも最新情報をお届け！

f i t @kyudaikikin

LINE @iwa1859p

日々活動を配信しています。
是非フォロー・いいねをお願いします！

九州大学基金
INFORMATION

九州大学基金では、多くの寄附者のみなさまのご支援により、今回ご紹介している学生を対象にした支援助成事業を年間1億円規模で実施しているほか、10を超えるプロジェクトを実施しています。詳しくは九州大学基金のホームページをご覧ください。https://kikin.kyushu-u.ac.jp/

